

汎用人工知能エージェント「Manus」の全貌： 技術的特異性、実利用の評価、および米中AI 覇権争いにおける地政学的意義

Gemini 3.1 pro

1. イントロダクション: 次世代AI「エージェント」の台頭と波紋

2026年5月現在、世界のテクノロジー産業は人工知能(AI)の進化における重大な転換点に直面している。単にテキストを生成し、ユーザーの質問に対して受動的に回答する「チャットボット」の時代は終焉を迎え、ユーザーの抽象的な意図を理解し、自律的に計画を立て、ウェブを巡回し、コードを実行し、最終的な成果物を納品する「AIエージェント(Agentic AI)」の時代が本格的に幕を開けた。このパラダイムシフトの最前線に位置するのが、シンガポールに拠点を置く(実質的な開発基盤は中国) Butterfly Effect社が開発した汎用AIエージェント「Manus」である¹。

ラテン語で「手」を意味し、マサチューセッツ工科大学(MIT)の伝統的なモットーである「Mens et Manus(心と手)」にその名を由来するこのシステムは、構想(心)から実行(手)までのプロセスを完全に自動化する能力を持つ¹。2025年3月のベータ版ローンチ直後から「世界初の真の汎用AIエージェント」として業界を席卷し、ソフトウェアエンジニアリング、市場調査、データ分析など、従来は人間のホワイトカラー労働者が担っていた複雑なタスクを人間の介入なしに完遂する実力を示した¹。その性能は、既存の最高峰モデルを評価するAIベンチマークテストにおいても突出した成績を収めている⁴。

この圧倒的な技術的卓越性は必然的に巨大テック企業の関心を引き、2025年12月、米Meta Platforms(以下、Meta)による約20億ドルから30億ドル規模の巨額買収という形で結実するかに見えた¹。しかし、2026年4月27日、中国の国家発展改革委員会(NDRC)が国家安全保障と技術輸出管理の観点からこの買収を公式に差し止めるという、世界のM&A市場において前例のない事態が発生した⁶。

本報告書は、Manusが持つ技術的アーキテクチャの特異性、実際のユースケースとユーザーからの評価、開発元であるButterfly Effect社の戦略的軌跡を詳細に解剖する。さらに、Metaによる買収の戦略的意図と、それを強硬に阻止した中国政府の法理的・地政学的論理を分析し、国境を越えたAI技術の移転が直面する新たなリスク構造について包括的に論じる。

2. Manusの技術的アーキテクチャ: ファウンデーションモデルの超越

Manusが既存のAIモデルと一線を画す理由は、単一の巨大な言語モデル(LLM)をゼロからトレーニングした点にあるのではない。複数の最先端ファウンデーションモデルの上に構築された、精緻な「オーケストレーション層」と自律的な「実行環境」の設計にその本質がある。

2.1 基盤技術と「CodeAct」アプローチの採用

Manusの頭脳を構成するのは、単一の独自モデルではない。初期の推論エンジンとしてAnthropicのClaude 3.5 Sonnet(後にClaude 3.7へと移行)を中核に据えつつ、アリババのQwenモデルのファインチューニング版などを動的に呼び出すマルチモデル・アーキテクチャを採用している⁸。開発チームは、状況やサブタスクに応じて最適なモデルを動的に呼び出すことで、各モデルの強みを最大限に引き出している⁹。

このシステムの最大の技術的革新は「CodeAct(コードアクト)」と呼ばれるアプローチである。一般的なチャットボットが事前に定義されたAPIの範囲内でしか行動できないのに対し、Manusはユーザーの指示を受け取ると、それを実行可能なPythonコードに変換し、クラウド上に構築された完全に隔離されたサンドボックス環境(Linuxベースの仮想マシン)内で直接実行する⁵。この実行環境には、以下の権限と29種類の多様なツールが完全に統合されている⁵。

- 完全なブラウザ操作能力: browser-useフレームワークやPlaywrightを活用し、ログイン認証、スクロール、クリック、データのスクレイピングなど、人間と全く同じようにウェブサイトを視覚的かつ構造的に操作する⁵。
- ファイルシステムとターミナルへのアクセス: Pythonインタプリタを通じてファイルの読み書きやシェルコマンドの実行を行い、データベースの構築やソフトウェアのコンパイルを自律的に行う⁵。
- 記憶と文脈の高度な管理: 一時的な対話履歴に依存するのではなく、ファイルベースのメモリシステムを使用して進行状況を永続的に追跡し、数時間に及ぶ長期的なタスクにおける文脈の喪失を防ぐ⁹。

Manusの開発チームを率いるチーフサイエンティストのJi Yichao(通称:Peak)は、基盤モデルをゼロから学習させるのではなく、「コンテキスト・エンジニアリング(Context Engineering)」にリソースを集中させるという戦略的決断を下した。過去の自然言語処理(NLP)スタートアップでの経験から、モデル自体のトレーニングには膨大な時間とコストがかかり、急速に進化するフロンティアモデルにすぐに陳腐化させられるという教訓を得ていたためである¹⁰。モデルの進化を「上昇する潮位」とするならば、Manusを海底に固定された柱ではなく、その波に乗る「船」として設計したのである¹⁰。この反復的なアーキテクチャの探索とプロンプトの微調整により、基盤モデルの進化に依存しない強固なエージェント・フレームワークが確立された。

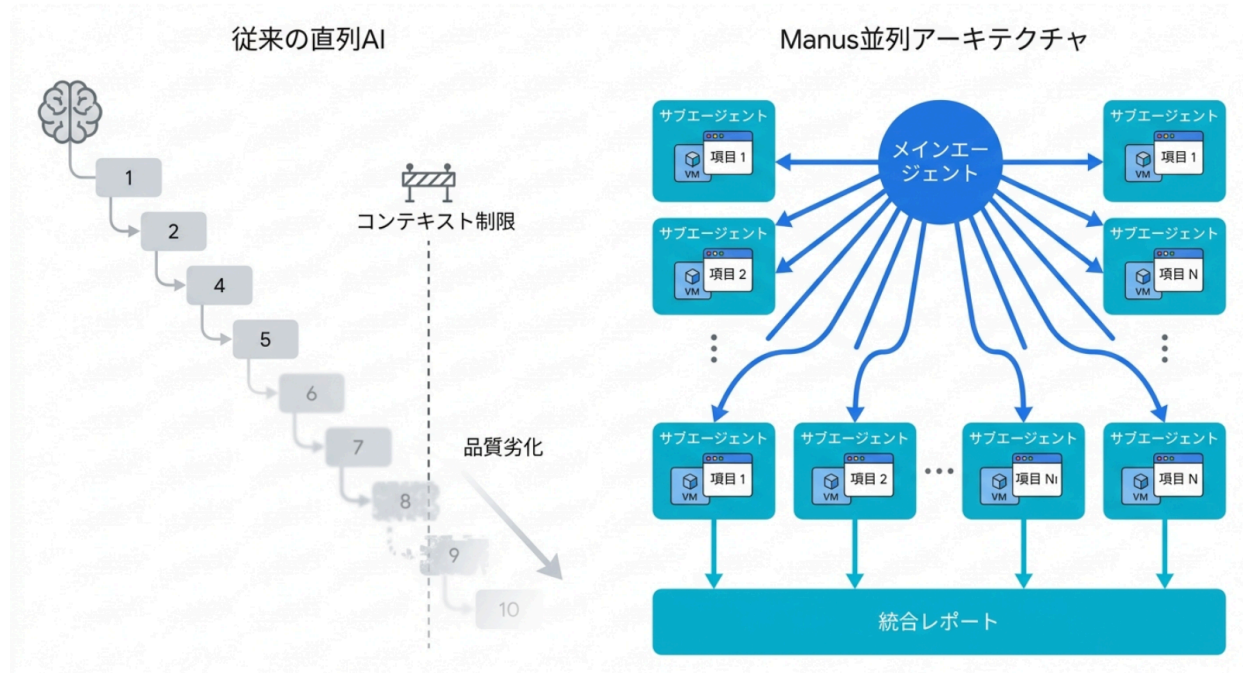
2.2 「Wide Research」: 並列マルチエージェントシステムの革新性

Manusの機能群の中で、技術的優位性を最も明確に示しているのが「Wide Research(ワイドリサーチ)」機能である。従来のAIモデル(例えばOpenAIのDeep Researchなど)は、複雑な単一の質問に対する垂直的な「深掘り」には適しているが、数百の競合他社の分析や大量の商品の比較といった水平方向への「スケール(拡張)」には致命的な弱点を抱えていた¹¹。

従来のAIシステムは固定の「コンテキスト・ウィンドウ」で動作するため、処理する項目が増加すると過去の情報を圧縮または忘却せざるを得ない。特に処理対象が8~10項目(いわゆる捏造閾値)を超えると、文脈の飽和が発生し、出力の質が急激に劣化したり、ハルシネーション(もっともらしい嘘)を引き起こしたりする¹¹。この構造的な問題に対し、Wide Researchは直列処理を完全に放棄し、中

中央集権的な並列マルチエージェント・オーケストレーションを導入した。

直列処理の限界と並列マルチエージェントシステムの革新



従来のAIチャットボットはタスクを直列に処理するため、コンテキストウィンドウの限界により8~10項目を超えると精度が劣化する。一方、ManusのWide Researchは独立したコンテキストとツールを持つ数百のサブエージェントを並列展開し、品質を落とさずに大規模な情報処理を実現する。

Wide Researchでは、メインエージェントがタスクを分割し、個別のコンテキスト、ツール、インターネットアクセス権(専用の仮想マシン)を持つ独立したサブエージェントを数百単位で同時展開する¹¹。サブエージェント同士は互いに通信を行わないため、文脈の汚染が防がれる¹³。これにより、100件以上の市場調査や競合分析などのタスクにおいて、1番目の項目と250番目の項目が全く同じ深さと品質で処理され、最終的にメインエージェントがそれらを統合して完全なスプレッドシートやデータベースとして出力する¹¹。数時間を要していた大規模リサーチが、スケールに関わらず数分で完了するこのアーキテクチャは、競合製品に対する明確な差別化要因となっている¹¹。

3. 実利用シナリオ: 調査からアプリ開発までをこなす「汎用性」

Manusの実力は、研究開発環境でのテストにとどまらず、実際のビジネスユースケースにおいて広範なタスクを実行できる点にある。「調査もアプリ作成もこなせる」と評されるその能力は、複数の専門的な領域にまたがっている。

3.1 フルスタック・アプリケーションの自律開発

ソフトウェアエンジニアリングの分野において、Manusは単なるコードスニペットの生成ツール（Copilot等）を凌駕している。ユーザーが自然言語で「どのようなアプリが欲しいか」を記述するだけで、ManusはフロントエンドのUI構築、バックエンドのロジック作成、さらにはデータベースの統合までを含めた「本番環境で稼働するコード（production-ready code）」を自律的に構築する¹⁴。

特筆すべきは、外部APIや決済システムの複雑な統合能力である。例えば、ユーザーが「高速で安全なログインシステムを追加してほしい」と単一のプロンプトを入力するだけで、必要な認証基盤を構成する¹⁴。さらに、EコマースやSaaSアプリケーションに不可欠なStripe決済の統合においても、Manus自身がStripeのサンドボックス環境を設定し、APIキーを管理し、決済フローをテストするコードを自律的に実装する¹⁴。これにより、従来は複数のエンジニアが数日を要していたプロトタイプの開発が、わずか数時間で完結する。

3.2 大規模リサーチとクリエイティブ・タスクの実行

前述のWide Research機能を用いたリサーチ業務では、単なる情報の要約を超えた価値を提供する。例えば、「特定の業界における競合他社50社の価格戦略と特徴を比較したマトリクスを作成せよ」といった指示に対し、Manusは並列エージェントを展開して各社の最新のウェブサイトをスクレイピングし、指定されたフォーマット（企業名、価格帯、主要機能、ターゲット層など）に従って構造化されたデータセットを構築する¹¹。これは、情報の鮮度と網羅性が直結する金融モデリングや、B2Bのプロスペクト（見込み客）リスト作成において絶大な威力を発揮する¹²。

また、クリエイティブ領域においても、Manusは多様な出力フォーマットに対応している。プレゼンテーション用のスライド作成、ウェブサイトのビルダー機能、デスクトップアプリの開発に加え、高度な画像生成機能も統合されている¹¹。ユーザーが「水彩画風の未来都市の夕暮れ」といった情景を記述すれば、高解像度の背景画像を生成するツールを作成したり、ブログ記事のタイトルと要約に基づいて、記事ごとに固有のヘッダー画像を自動生成する機能をシステムに組み込んだりすることが可能である¹⁷。

3.3 コスト、アクセス制限、およびユーザーからのリアルな評価

一方で、これほどの高度な自律性を実現するための計算コストとインフラストラクチャの負荷は極めて高く、それが提供形態とユーザー評価に如実に表れている。

Manusは現在、月額79ドルという強気な価格設定（タスク換算で約2ドル）で提供されており、これはOpenAIのDeep Research（月額200ドル水準）と比較すれば安価であるものの、一般的なチャットボット・サブスクリプションの約4倍のコストである³。さらに、コンピューティングリソースの制限から、2025年3月のローンチ以降、厳格な「招待制（invite-only）」のプレビュー段階が維持されている¹。公式Discordチャンネルには18万6,000人以上のメンバーが殺到しているが、実際にプラットフォームにアクセスできるのは全体のわずか1%未満に過ぎない³。この極端な希少性により、流通市場（セカンダリーマーケット）ではアーリーアクセス権や招待コードが一時1万3,700米ドル（数万人民元）という法外な価格で転売される事態にまで発展した¹⁸。

実際のユーザー、特に日本のアーリーアダプター層からの評価は、技術的驚嘆と実用上のフラストレーションが混在している。リサーチの自動化やコード実行能力を高く評価する声がある一方で、否定的なフィードバックも散見される³。日本のユーザーレビューでは、「生成されるコンテンツの正確性

が怪しい(ハルシネーションの問題)」「1回の複雑なタスクにおけるクレジット(トークン)の消費が激しすぎる」「ペイウォール(有料課金の壁)に直面するとエージェントが立ち往生し、結局人間の介入や修正作業が必要になる」といった具体的な欠点が指摘されている³。さらに、複雑なタスクでは完了までに数時間を要するケースもあり、スピードの面でPerplexityなどの検索特化型AIに劣る場面も確認されている⁵。中国の国営メディアが「第二のDeepSeek」と絶賛した熱狂とは裏腹に、実世界のカオスなウェブ環境において完全な自律性を担保することの難しさが浮き彫りになっている。

4. 競合モデルとの性能比較およびベンチマーク評価

Manusの市場における位置づけを客観的に把握するためには、主要なAIベンチマークにおけるパフォーマンスと、競合他社のAIエージェントとの構造的な比較が不可欠である。

4.1 GAIAおよびSWE-benchにおける卓越した成績

汎用AIアシスタントの能力を測定する最も重要な指標の一つである「GAIAベンチマーク」において、Manusはすべての難易度レベル(レベル1~3)で最高水準(SOTA: State-of-the-Art)のパフォーマンスを達成した⁴。GAIAは推論、マルチモーダル処理、ウェブブラウジング、およびツールの習熟度を総合的に問う実世界のタスクで構成されており、ManusはこのテストでOpenAIのDeep Researchなどの既存の最高峰モデルを明確に上回った²。

さらに、ソフトウェアエンジニアリングの自律的な問題解決能力を評価する「SWE-bench」においても、顕著な成績を残している。SWE-benchは、GitHub上の実際のイシュー(バグ報告や機能追加要求)と、それを解決したプルリクエストのデータセットを用いて、AIシステムが現実のコードベースをどれだけ正確に修正できるかを自動的に評価する枠組みである²³。

しかし、AIモデルの評価においては「データ汚染(Data Contamination)」という深刻な問題が存在する。既存のLLMはトレーニング段階でGitHubの公開コードを大量に学習しているため、テスト時に問題を「解決」しているのか、単に過去の正解を「記憶から引き出している」だけなのかを判別することが難しい²⁴。この問題を排除するために設計されたのが、非公開の独自コードベースや強力なコピーレフトライセンスを持つソフトウェアを使用する最新の「SWE-bench Pro」である²⁴。旧来のSWE-bench Verifiedではmini-SWE-agentなどが74%という高い解決率を叩き出しているのに対し、より厳格で現実的なSWE-bench Proのパブリックセットでは、世界トップクラスのモデルであっても解決率は23%程度に留まっている²⁴。Manusはこのような極めて難易度の高いプロフェッショナルなソフトウェア開発環境のシミュレーションにおいても、堅牢な問題解決能力を証明している。

4.2 主要AIエージェントとの機能比較

以下の表は、2026年時点における主要なAIエージェント(Manus、OpenAI Deep Research、OpenAI Operator、Claude Computer Use)の技術仕様と市場ポジショニングの比較である。

機能 / 仕様	Manus AI	OpenAI Deep Research	OpenAI Operator	Claude Computer Use

主要推論モデル	Claude 3.7 / Qwen等	o3	カスタムCUAモデル	Claude 3.5 / 3.7
アーキテクチャ	マルチエージェント並列	単一・直列探索	単一エージェント	単一エージェント
実行環境	クラウド上の独立Sandbox	ChatGPT統合	独自の仮想ブラウザ	ローカルデスクトップ
コード自律実行	対応 (Python完全実行)	制限あり	制限あり	制限あり
デプロイメント機能	対応 (サブドメイン公開)	非対応	非対応	非対応
月額利用料金	79ドル	200ドル	200ドル	API従量課金

データソース:⁵

この比較から明らかなように、Manusは他のモデルが苦手とする「複数ステップにわたるブラウザナビゲーション」や、サンドボックス内での完全な「コード実行」、そして作成したウェブサイトやアプリケーションの「直接的なデプロイ(公開)」において圧倒的な強みを持つ⁵。OpenAI Operatorがブラウジングの無限ループに陥って失敗するような複雑なSEO監査タスクにおいても、Manusは視覚的に洗練されたインタラクティブなレポートを最後まで完遂する能力を示している⁵。

5. 開発元「Butterfly Effect」の軌跡と戦略的事業再編

技術的な洗練度の高さの裏には、創業者たちの特異な経歴と、目まぐるしく変化する地政学的な規制環境への適応、そして生き残りを賭けた戦略的事業再編の歴史が存在する。

5.1 創業の背景と天才エンジニアの参画

Manusを開発したButterfly Effect(北京バタフライ・エフェクト・テクノロジー)は、OpenAIがChatGPTを一般公開して世界に衝撃を与えるわずか2ヶ月前の2022年10月に、シリアル起業家であるXiao

Hongによって設立された¹。共同創業者であり、Manus製品のチーフサイエンティストを務めるJi Yichao(ニックネーム:Peak)は、コロラドと北京で育ち、高校時代にiPhone向けの「Mammoth Browser」を開発した天才的なエンジニアである¹。彼は2012年にPeak Labsを設立し、ZhenFundやSequoia China(現在のHSG)から資金調達を行い、2012年と2013年にはForbes Chinaの「30 Under 30」に連続で選出されるなど、中国のテック業界で早くから名を馳せていた¹。さらに、プロダクトディレクターとしてZhang Taoが加わり、強力なコアチームが形成された¹。

創業当初、彼らは意図的に中国国内市場を避け、北米、日本、韓国といった海外市場をメインターゲットに据えた。その最大の理由は、Manusが目指す高度な処理を実現するために不可欠な、欧米製の最先端AIモデル(Claude等)へのアクセスが中国国内では厳しく制限されていたためである¹。

2023年、Butterfly Effectはブラウザ拡張機能「Monica.im」をリリースした。これはClaude、OpenAI、DeepSeek、Geminiなどの複数の商用LLMを単一のサイドバー・インターフェースに統合し、翻訳や執筆支援を行うツールであった¹。Monicaの急速な普及と成功は、チームに「AIオーケストレーション」のための堅牢なミドルウェア層を構築する貴重な経験をもたらした²⁶。この成功に着目した中国の巨大プラットフォームByteDanceは、2024年に約3,000万ドルでの買収オファーを提示したが、Xiao Hongはこれを拒否した¹。彼らはMonicaの事業から撤退(株式売却)し、チャットボットという受動的なアシスタントツールから、ユーザーに代わって自律的に行動しタスクを完遂する「汎用AIエージェント」の開発へと完全に舵を切ったのである。これがManusプロジェクトの真の幕開けであった²⁶。

5.2 「シンガポール・ウォッシング」: 地政学リスクの回避戦略

2025年3月にManusがベータ版として世界的にローンチされると、瞬く間に業界の注目を集めた。しかし、世界最高のAIエージェントを中国本土からグローバルに展開することには、致命的な構造的リスクが伴った。米国の先端半導体(GPU)へのアクセス制限、米国投資家からの資本受け入れ規制、そして中国当局による厳格なアルゴリズム統制である。

この地政学的リスクを回避するため、Butterfly Effectは大胆な組織再編を断行する。2025年の半ば、シリコンバレーの名門ベンチャーキャピタルであるBenchmarkから、企業評価額5億ドルで7,500万ドルのシリーズB資金調達を主導されたことを契機に、同社は事業主体と本社機能を北京からシンガポールの「Butterfly Effect Pte. Ltd.」へと移管した¹。

この移転プロセスは、単なる法人の設立にとどまらない徹底的な「脱中国化」であった。約120名いた中国本土の従業員のうち、コアとなる技術スタッフ約40名のみをシンガポールに異動させ、残りの大半のスタッフを解雇し退職金を支払った¹。さらに、中国語のソーシャルメディアアカウントを完全に閉鎖し、中国本土のIPアドレスからのウェブサイトへのアクセスを意図的にブロックし、以前に発表されていたアリババのQwenチームとの提携による中国向け製品の開発計画を白紙撤回した¹。

この一連の動きは、国際金融およびテクノロジー業界において「シンガポール・ウォッシング(Singapore Washing)」と呼ばれる戦略の典型例である¹⁵。これは、中国発のスタートアップが、米国による投資・技術規制や中国当局の監視の網の目を逃れ、グローバルな資本と市場にシームレスにアクセスするために、中立的な第三国(主にシンガポール)に拠点を移し、自らの出自を「洗浄」する試みである²⁷。外形上は完全に「シンガポールのAI企業」として振る舞うことに成功したManusは、事業を急速に拡大し、収益のランレートの2025年8月の約9,000万ドルから、同年12月には1億2,500

万ドルへと急成長を遂げた¹。

6. Metaによる巨額買収劇と戦略的意図

シンガポール企業としてのクリーンな体裁を整え、圧倒的な技術的優位性を証明したManusに対し、AI開発に社運を賭けて巨額の投資を行う米国の巨大テック企業が接近したのは必然の帰結であった。

6.1 MetaのAIインフラ投資と「エージェント」への渴望

2025年12月30日、マーク・ザッカーバーグ率いるMetaは、Manusを約20億ドルから30億ドル(約3兆円)で買収する計画を公式に発表した¹。これはMetaの歴史上、InstagramやWhatsAppの買収に次ぐ最大規模のディールの一つであった¹⁸。

この巨額買収の背景には、Metaの熾烈なAIインフラ投資競争と戦略的ビジョンがある。Metaは2026年において、AI関連インフラに対して最大1,350億ドルという天文学的な投資を行う計画を発表している³²。Nvidiaとの数百万個のAIチップ調達に関する数百億ドル規模の契約や、Nebiusとの270億ドル規模のインフラ契約を結ぶなど、計算資源の確保において他社を圧倒しようとしている³²。

Metaの戦略の中核は、強力なオープンソースモデルである「Llama」シリーズを世界の標準モデルとして普及させつつ、自社のプラットフォーム(Facebook、Instagram、WhatsApp)の数十億人のユーザーベースに対して、単なるチャットボットではない「汎用目的(General Purpose) AIエージェント」を統合することにあつた⁶。

Manusが持つ、複数のLLMを束ねて自律的に複雑なタスク(休日の計画立案、顧客対応、プログラミング、市場調査など)を遂行するオーケストレーション能力や、Wide Researchに見られるスケーラブルな情報処理基盤は、Metaが構想するAIの未来像と完全に一致した。Metaはこの技術と優秀な開発チームを取り込むことで、ユーザーの日常生活からビジネスプロセスの自動化までを自社プラットフォーム内で完結させる強固なエコシステムを構築し、GoogleやOpenAIといったライバルに対する決定的な優位性を一気に確立しようと目論んだのである⁶。

6.2 ディールの成立と初期の統合プロセス

買収合意に伴い、MetaはManusの技術を自社の「Meta AI」に深く統合する一方で、Manusの既存のサブスクリプションサービスやシンガポールでの事業運営は当面維持する意向を示した¹。また、Xiao Hongら創業者チームがMeta内でAI部門の上級職に就き、すでに100名以上のManus従業員がMetaのシンガポールオフィスに物理的に統合され始めていたという報道もある⁷。

買収発表時、Meta側はManusに「継続的な中国資本の保有権は一切存在しない」と強調し、Manusがすでに中国でのサービスと事業を完全に終了させていることをアピールした³⁴。これは、米国の対米外国投資委員会(CFIUS)など西側諸国の規制当局からの技術流出懸念を払拭するための周知な布石であった。しかし、彼らがこのディールにおいて真に警戒し、対峙すべき相手はワシントンではなく、北京の規制当局であった。

7. 中国政府の強硬介入: ディール破棄の深層と「3つのレッドラ

イン」

「シンガポール企業を米国企業が買収する」という外形的なグローバル商取引に対し、中国政府は国家権力を直接的に行使して介入した。この決定は、世界のテック投資環境の前提を根底から覆す破壊力を持っていた。

7.1 国家発展改革委員会 (NDRC) による前例のない介入と出国禁止

買収発表直後の2026年1月、中国商務部は、この取引が輸出管理、技術移転、および海外投資に関する中国の規則に違反していないかを確認するための「評価調査」を即座に開始した¹。

調査の過程で、中国当局は圧力を急速に強めた。3月、Manusの共同創業者であるXiao HongとJi Yichaoは北京に召喚され、国家発展改革委員会 (NDRC) の官僚と面会させられた。そこで彼らは、外国直接投資ルール違反の可能性について尋問を受けるとともに、調査が完了するまで中国からの出国を禁じる「出国禁止措置 (Exit Ban)」を言い渡されたのである¹。シンガポールを拠点としていた彼らが中国国内に足止めされたことは、テクノロジー業界全体に強い衝撃を与えた。

そして2026年4月27日、中国の最高経済計画機関である国家発展改革委員会 (NDRC) の外資安全審査工作機制弁公室は、最終的な鉄槌を下した。国家安全保障を理由に、外資によるManusの買収を全面的に禁止し、関係当事者に対して買収契約の即時取り消しと撤回を命じる決定を正式に発表したのである¹。

中国当局は「外商投資安全審査弁法 (2021年施行)」第4条を法的な根拠とした。同法では、国家の安全に関わる重要な情報技術やインターネット製品・サービスにおいて、外資が実際の支配権を握る投資は安全審査の対象となると定められている。Manusが提供する汎用AIエージェントはこの重要技術に該当するにもかかわらず、両社がこれを事前に申告しなかったことが明白な違反とされた⁷。Metaの広報担当者は「取引は適用される法律を完全に遵守している」と反発し、適切な解決を期待する声明を出したが、中国という巨大な主権国家の決定を覆すことはできず、事実上20億ドルのディールは白紙撤回へと追い込まれた¹。

7.2 技術的管轄権とデータ主権の死守

西側メディアの多くは、この決定を「権威主義国家による恣意的な介入」や「テクノロジーの民主化への攻撃」として批判的に報じた³⁹。しかし、中国政府側には、自国の技術主権とインテリジェンスを守るための極めて明確な法理的・戦略的論理が存在した。

中国当局は、Manusが国境を越えてシンガポールに本社を移したとしても、技術の起源と実態に焦点を当てる「ルックスルー (Look-through)」アプローチを適用したのである⁷。中国メディアや専門家の分析を総合すると、Manusは地政学的に超えてはならない「3つのレッドライン (Red Lines)」を完全に踏み越えていた。

Manus買収を阻止した中国当局の「3つのレッドライン」

🛡️ 国家発展改革委員会（NDRC）審査フレームワーク

LAYER 3 / 最終防衛線

国家安全保障

メタ社への売却は「戦略的脅威」

Meta社は米国防産業やファイブ・アイズ（機密情報共有枠組み）と強固に連携しており、本件は単なる商業取引ではなく国家レベルの脅威となる。自律型AIエージェントは次世代の「重要インフラ」として定義されており、外資による戦略的基盤の支配を完全に阻止した。



LAYER 2 / データ防衛線

データ主権

中国ユーザーデータの無断輸出防止

Manusは運用期間中に147兆トークンを処理し、8000万台の仮想PC環境を構築した。これらには大量の中国ユーザーデータが含まれる。Meta社へのデータ引き渡しは重大なデータ流出に直結し、「個人情報出境標準契約弁法」等の厳格な輸出規制に明確に違反すると判断された。



LAYER 1 / 基盤防衛線

技術管轄権

オフショアウォッシングの拒否

コアアルゴリズムと開発チームの起源は北京（Butterfly Effect社）および武漢の研究所にある。シンガポールへの登記移転による外資系企業への偽装（シンガポールウォッシング）は無効であると認定。国家の支援を受けた国内技術をシリコンバレーへ「技術密輸」することを許さない姿勢を示した。

中国国家発展改革委員会（NDRC）の介入論理。企業の登記地（シンガポール）に関わらず、アルゴリズムの開発地、処理されたデータの起源、および取得先企業の軍事的文脈を総合的に評価し、AIエージェントを国家の「重要インフラ」として定義した。

Data sources: [Socialist China](#), [Asia Times](#)

1. 技術的管轄権 (Technical Jurisdiction) と技術密輸の阻止: 法人の登記簿上がシンガポールであろうと、Manusの中核となるアルゴリズムやオーケストレーション技術は、北京と武漢の

研究所において、中国の教育システムが育て上げたエンジニアたちによって開発されたものである。中国政府から北京でのオフィス賃料の補助を受けるなどの国家支援を受けて開発された中核技術を、海外のペーパーカンパニーに移管して「技術ロンダリング(技術密輸)」し、それを米国の巨大企業に売却することは絶対に許容されないという法理である⁷。これを許せば、中国は自律的な技術革新国家ではなく、単なる「シリコンバレーのための人材インキュベーター」に成り下がってしまうからである⁷。

2. データ主権 (**Data Sovereignty**) の侵害: Manusはその約8ヶ月間の稼働期間において、147兆を超えるトークンを処理し、8,000万以上の仮想コンピュータ(サンドボックス)を作成したとされる。これには中国国内のユーザーに関する膨大なリアルデータや操作ログが含まれており、Metaへの完全な技術移転は深刻なデータ漏洩とみなされた。これは2026年1月に施行された「中国個人情報出境標準契約弁法」等の厳格なデータ輸出規制に真正面から抵触する行為であった⁷。
3. 国家安全保障と「米国の国防機関」としてのMeta (**National Security**): 中国の戦略的視点において、自律的なAIエージェントはもはや単なる商業用のソフトウェアではなく、次世代の「オペレーティングシステム」の入り口として機能する極めて重要な「戦略的インフラ」である⁷。一方のMetaは、純粋な民間企業としての顔を持ちながらも、同社のLlamaモデルを米国の連邦機関や「ファイブ・アイズ(Five Eyes)」の諜報パートナーに積極的に提供し、国防請負業者Andurilと強固に提携している。中国政府から見れば、Metaは事実上の「米国の国家安全保障・軍事機構の延長」として認識されている³⁹。中国起源の最先端インフラストラクチャを、敵対的競争関係にある米国の軍事・諜報と密接に結びついた企業に引き渡すことは、潜在的なインテリジェンス・オペレーション(諜報活動)の許容と同義であり、到底受け入れられない脅威であった³⁹。

これらの論理に基づき、NDRCは中国の「輸出禁止および制限技術カタログ」や「改正対外貿易法」を適用し、合法かつ妥当な主権の行使としてディールを粉砕したのである³⁹。

8. 第二次・三次的波及効果: グローバルAI投資環境の激変

ManusとMetaのディール崩壊は、単に一つのM&A案件が失敗したという局所的なニュースに留まらない。この事件は、AI産業のグローバルなサプライチェーンと投資環境に対する極めて深刻で広範な「波及効果(Ripple Effects)」を引き起こしている。

8.1 「シンガポール・ウォッシング」の完全な終焉と二重の巻き戻しリスク

これまで米国の投資家や多国籍企業は、クロスボーダーのテクノロジーディールにおいて、主に米国内の対米外国投資委員会(CFIUS)の規制リスクやワシントンの政治的動向を警戒してきた。中国側にも外資安全審査の制度は存在していたものの、実務上、それが公に強制力を持って発動されることは稀であり、暗黙の了解として軽視される傾向にあった⁴⁰。

しかし、Manusに対するNDRCの前例のない公的な禁止命令は、この市場の前提を完全に破壊した。法律事務所や企業のM&Aデューデリジェンス部門にとって、今後のAI関連取引——特に少しでも中国に起源を持つモデルのトレーニング、エージェントのエンジニアリング、あるいはデータセットへの依存関係を持つ取引——においては、**米国(CFIUS)と中国(NDRC)の双方からの「二重の巻

き戻し(Unwind)リスク]**を常に想定しなくならなくなった⁴⁰。

Metaの事例が示すように、クローリングが数ヶ月前に完了し、すでに巨額の資金が移動し、従業員のオフィス統合が始まっている段階であっても、国家安全保障を理由に事後的に取引が取り消されるという「極度の法的・経済的リスク」が顕在化した⁴⁰。ディールを巻き戻すためには、買収した資産を元の投資家に買い戻させるか、新たな買い手を見つけるための複雑なスピンオフ作業が必要となり、実務上は不可能に近い⁴²。

この結果、米国のベンチャーキャピタルや巨大テック企業は、今後、中国のDNAを持つAIスタートアップに対する投資や買収を著しく敬遠するようになる。スタートアップ側にとっても、「シンガポールに本社を移し、中国のスタッフを解雇し、中国市場から撤退する」という外形的な「シンガポール・ウォッシング」戦略が、中国政府のルックスルー規制の前では全くの無意味であることが証明された¹⁵。これは、中国の優秀なAI起業家たちが西側のグローバルな資本や計算資源(GPU)にアクセスするための有力な抜け道が、完全に塞がれたことを意味する。

8.2 中国国内のマクロ経済戦略: AIエージェントの「需要牽引」と内需化

中国政府が国際的な批判を浴びてまで、ManusのようなトップレベルのAIエージェントの流出を強硬に阻止し、創業者を出国禁止にしてまで国内に囲い込んだ背景には、中国国内の切実なマクロ経済的な政策転換が存在する。

2026年4月、中国国務院は「サービス産業の拡張と品質向上を促進するための意見」と題する極めて重要な政策方針を公表した。この政策では、2030年までに中国のサービス産業の総規模を100兆人民元に達するという野心的な国家目標が掲げられている⁷。2025年時点のサービス産業の規模は約80.9兆元であり、残り数年で約19兆元という巨大なギャップを埋めるためには、従来の労働集約型の成長モデルでは不可能である。

そこで中国政府は、不足する労働力を補い、産業の構造的効率化を爆発的に進めるための特効薬として「人工知能+(AI Plus)」アクションを中核に据えた。注目すべきは、この政策が従来の「AI企業に対する研究開発(R&D)の補助金支給」という供給側の支援から、「大規模モデルやAIエージェントサービスの調達・購買支援」という**需要側の牽引(Demand-side pull)**へとパラダイムシフトしている点である⁷。

具体的には、生産性サービス業(インテリジェントなプログラミングツール、法務・ビジネス契約のAIレビュー、財務・税務の最適化など)や、生活サービス業(コミュニティでの家事代行、高齢者ケア、幼児保育のAIマッチングと監視など)において、政府主導でAIエージェントの導入を強力に後押ししている⁷。さらに、AI導入を加速するためのインフラストラクチャ(データセンターなど)の建設資金を調達するために、適格なサービス業プロジェクトに対して「不動産投資信託(REITs)」の発行を許可するという金融・制度的な支援メカニズムまで用意されている⁷。

このマクロ経済的文脈に照らし合わせれば、Manusの囲い込みの意図はより鮮明になる。中国経済全体が構造的な効率化を迫られる中、自律的にタスクを完遂するAIエージェントはもはや一部のIT企業のおもちゃではなく、労働力不足やサービス品質の低下を補うための不可欠な「国家の基盤インフラ」そのものである。Manusのような完成された高い汎用性を持つAIエージェントは、この100兆元規模のサービス産業アップグレード戦略において極めて重要なピースであり、国家の中核としては、いかなる摩擦を生んでも国内のエコシステム内に留め、内需拡大のために奉仕させる必要が

あったと分析できる。

Manusを巡る技術覇権と買収阻止のタイムライン（2022年 - 2026年）

● 企業動向 (Butterfly Effect / Meta) ● 政府介入 (中国政府 / NDRC)



Butterfly Effectの創業から、シンガポールへの本社移転による規制回避の試み、Metaによる巨額買収合意、そして国家安全保障を理由とした中国NDRCによる前例のないディール破棄命令に至るまでの経緯。

データソース: Wikipedia, Asian Intelligence, Asia Times

9. 結論: AIエージェント時代における「技術主権」の新たなパラダイム

2026年5月現在、Manusを巡る買収劇と国家の強権的な介入の結末は、単なるグローバル企業のM&Aの失敗以上の歴史的意義を持っている。この一連の事件は、AI技術の飛躍的な発展がもたらす新たな地政学的な断層線を、これ以上ないほど鮮明に白日の下に晒した。

第一に、技術的な観点において、Manusが証明したCodeActアプローチとWide Researchという並列処理アーキテクチャの成功は、汎用AIエージェントがもはや研究所の中のデモンストレーションやSFの領域を完全に脱し、実際のビジネスプロセスやアプリケーション開発を根底から自動化し得る実用段階に達したことを示している。この技術的特異性は、AIを単なる「便利なソフトウェア」から、次世代の産業革命を駆動する「絶対的な基盤インフラ」へと押し上げた。

第二に、地政学的な観点において、Metaの野心的な買収計画とそれを力で阻止した中国政府の動きは、米中双方がAI覇権の確立を「国家の存亡を懸けたゼロサムゲーム」として認識している実態を浮き彫りにした。中国政府による前例のない介入は、「ルックスルー（技術とデータの起源を重視する）」原則に基づき、登記上の所在国や法的なスキームを隠れ蓑にした技術・人材の流出を絶対に許容しないという強固な国家意志の表明である。これにより、長年機能してきた「シンガポール・ウォッシング」という規制回避のパラダイムは完全に終焉を迎えた。

今後、世界のテクノロジー産業は、より深く、そして不可逆的な「デカップリング（分断）」の道を歩むことが確実視される。米国の資本はチャイナリスクを恐れて中国起源の技術を敬遠し、一方で中国は自国で育った天才的なAIタレントと最先端アルゴリズムを厳重な法と実力行使によって囲い込みながら、100兆元規模のサービス産業近代化という国内の強大な需要を満たすためにそれらを活用していく。

汎用人工知能エージェント「Manus」の存在は、AIが到達し得る自律性と処理能力の限界を押し広げた輝かしい金字塔であると同時に、ボーダーレスなイノベーションの時代の終焉と、国家がデータと技術を徹底的に管理する厳格な「技術主権（Technology Sovereignty）」の時代の到来を告げる歴史的なマイルストーンとして長く記憶されることになるだろう。世界の投資家、多国籍企業の経営陣、そして政策立案者は、この冷酷な新たなパラダイムの下で、M&A戦略、サプライチェーンの構築、そして研究開発拠点の立地を根本から見直すことを迫られているのである。

引用文献

1. Manus (AI agent) - Wikipedia, 5月 3, 2026にアクセス、
[https://en.wikipedia.org/wiki/Manus_\(AI_agent\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Manus_(AI_agent))
2. Overview of MANUS AI Agent - Medium, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://medium.com/@astropomeai/overview-of-manus-ai-agent-6b1f37d90a91>
3. Manus AI Review: What Nobody Tells You | Trickle blog, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://trickle.so/blog/manus-ai-review>
4. Manus AI: AI Agent Use Cases and Benchmarks | by Tahir | Medium, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://medium.com/@tahirbalarabe2/manus-ai-ai-agent-use-cases-and-bench>

- [marks-81e07d151c50](#)
5. What is Manus AI? Benchmarks & How it Compares to Operator and ..., 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.helicone.ai/blog/manus-benchmark-operator-comparison>
 6. China blocks \$2bn Meta takeover of AI agent developer Manus ..., 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.theguardian.com/world/2026/apr/27/china-blocks-meta-takeover-manus-ai-agent-developer>
 7. China's Manus AI case sets red lines to bar 'Singapore washing ...', 5月 3, 2026にアクセス、
<https://asiatimes.com/2026/05/chinas-manus-ai-case-sets-red-lines-to-bar-singapore-washing/>
 8. Manus AI For Startups: What, How and Why Explained - Talentica Software, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.talentica.com/blogs/manus-ai-explained/>
 9. In-depth technical investigation into the Manus AI agent, focusing on its architecture, tool orchestration, and autonomous capabilities. - GitHub Gist, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://gist.github.com/renschni/4fbc70b31bad8dd57f3370239dccc58f>
 10. Context Engineering for AI Agents: Lessons from Building Manus, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://manus.im/blog/Context-Engineering-for-AI-Agents-Lessons-from-Building-Manus>
 11. Wide Research - Manus Documentation, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://manus.im/docs/features/wide-research>
 12. A Complete Guide for Deep Research and Wide Research Across ChatGPT, Gemini, Claude, Perplexity, Manus, and Grok + Master templates for the best research results. : r/ThinkingDeeplyAI - Reddit, 5月 3, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/ThinkingDeeplyAI/comments/1spit9s/a_complete_guide_for_deep_research_and_wide/
 13. Wide Research: Beyond Context Window - Manus, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://manus.im/features/wide-research>
 14. AI website builder | Build full-stack web apps with Manus, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://manus.im/features/webapp>
 15. Why Manus has become a crucial prize in the global AI race - Fast Company, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.fastcompany.com/91533167/why-manus-has-become-a-crucial-prize-in-the-global-ai-race>
 16. Manus: Hands On AI, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://manus.im/>
 17. Built-in AI Capabilities - Manus Documentation, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://manus.im/docs/website-builder/ai-capabilities>
 18. How should we view China's decision to halt the Manus acquisition?: Global Times editorial, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.globaltimes.cn/page/202604/1359940.shtml>
 19. Manus shifts HQ to Singapore, cuts China jobs - Tech in Asia, 5月 3, 2026にアクセス、

- <https://www.techinasia.com/news/manus-shifts-hq-singapore-cuts-china-jobs>
20. 私のManusレビュー(1ヶ月使用后、プログラマーではない) : r/ManusOfficial - Reddit, 5月 3, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/ManusOfficial/comments/1ry8ydt/my_review_of_manus_after_1_month_of_use_non/?tl=ja
 21. Manus AIを使ってみた！結局どうなの？ | ビッグボーイ/Bigboy/大人向け創作 - note, 5月 3, 2026にアクセス、https://note.com/k_clips/n/n85ba715fb780
 22. HAL: GAIA Leaderboard, 5月 3, 2026にアクセス、<https://hal.cs.princeton.edu/gaia>
 23. SWE-bench technical report - Cognition, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://cognition.ai/blog/swe-bench-technical-report>
 24. SWE-Bench Pro Leaderboard AI Coding Benchmark (Public Dataset) - Scale Labs, 5月 3, 2026にアクセス、https://labs.scale.com/leaderboard/swe_bench_pro_public
 25. SWE-bench Leaderboards, 5月 3, 2026にアクセス、<https://www.swebench.com/>
 26. Biography of Xiao Hong and Development of Manus AI, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://asianintelligence.ai/reports/biography-of-xiao-hong-and-development-of-manus-ai>
 27. The End of 'Singapore-Washing'? China Reasserts Control Over AI Firms Abroad, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.indrastra.com/2026/04/the-end-of-singapore-washing-china.html>
 28. Blocked Manus deal: Go beyond "Singapore washing" to attract global innovation, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.techgoondu.com/2026/04/29/blocked-manus-deal-go-beyond-singapore-washing-to-attract-global-innovation/>
 29. How China Block of AI Deal Could Stop 'Singapore-Washing', 5月 3, 2026にアクセス、
<https://chinaglobalsouth.com/analysis/singapore-washing-chinese-ai-startups-meta-manus/>
 30. Chinese Government Prohibits Meta's \$2 Billion Acquisition of AI Startup Manus, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.chosun.com/english/industry-en/2026/04/29/LTTA32C6JBHVFBNVC4RJJHNSKQ/>
 31. China gives Mark Zuckerberg's Meta deadline to 'unwind' the \$2 billion Manus deal: The 'big China' problem and why it matters, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/china-gives-mark-zuckerbergs-meta-deadline-to-unwind-the-2-billion-manus-deal-the-big-china-problem-and-why-it-matters/articleshow/130669608.cms>
 32. Meta's New Acquisition Deal Gets Blocked by the Chinese Government - Inc. Magazine, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.inc.com/moses-jeanfrancois/meta-manus-acquisition-blocked-china/91336510>
 33. China stops Mark Zuckerberg from buying Manus AI, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.indiatoday.in/technology/news/story/china-stops-mark-zuckerberg-from-buying-manus-ai-2902244-2026-04-27>
 34. China blocks Meta from acquiring startup Manus as global AI rivalry deepens - AP News, 5月 3, 2026にアクセス、

- <https://apnews.com/article/china-meta-manus-ai-acquisition-5f8012791f86f719a24a3ebac06d9b0a>
35. In blocking Meta-Manus' \$2 billion AI deal, China is trying to stem brain drain, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://m.economictimes.com/tech/artificial-intelligence/in-blocking-meta-manus-2-billion-ai-deal-china-is-trying-to-stem-brain-drain/articleshow/130554987.cms>
 36. China blocks Meta Platforms' \$2 billion acquisition of AI company Manus, tells Mark Zuckerberg: Withdraw your offer, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/china-to-mark-zuckerbergs-meta-you-cannot-buy-this-company/articleshow/130549821.cms>
 37. China restricts S'pore-based Manus founders from leaving: Report | The Straits Times, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.straitstimes.com/asia/east-asia/china-restricts-manus-founders-from-leaving-china-ft-says>
 38. China's decision to block the \$2 billion Meta-Manus deal shows how far Washington and Beijing are drifting apart over AI : r/ManusOfficial - Reddit, 5月 3, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/ManusOfficial/comments/1sy4pq6/chinas_decision_to_block_the_2_billion_metamanus/
 39. Why has China blocked Meta's purchase of Manus AI? - Friends of ..., 5月 3, 2026にアクセス、
<https://socialistchina.org/2026/04/29/why-has-china-blocked-metas-purchase-of-manus-ai/>
 40. China's Meta-Manus Block Adds New Risk Layer to Cross-Border AI Diligence, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.jdsupra.com/legalnews/china-s-meta-manus-block-adds-new-risk-2171321/>
 41. China's Meta-Manus block adds new risk layer to cross-border AI diligence, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://complexdiscovery.com/chinas-meta-manus-block-adds-new-risk-layer-to-cross-border-ai-diligence/>
 42. China blocks Meta's \$2bn purchase of AI group Manus, 5月 3, 2026にアクセス、
<https://www.ft.com/content/1e4c269a-5258-406c-a308-e55c3d5d640f?syn-25a6b1a6=1>